



アスリートのコトバ



元プロ卓球選手
東京 2020 オリンピック金メダリスト

みずたに じゅん
水谷 隼 さん

「夢は叶えるためにある」

磐田市出身の代表的なアスリート、元プロ卓球選手の水谷隼さん。全日本選手権シングルス史上初の5連覇・10回優勝、日本人初のオリンピック卓球シングルスメダリスト、東京2020オリンピックでは同じく磐田市出身の伊藤美誠選手とのペアで卓球混合ダブルスの初代金メダリストとなりました。

今年の3月、水谷さんが母校の城山中学校で「未来を語らう会」の講師として全校生徒に話をした際のコトバです。

水谷さんは「成功するためには『具体的かつ高い目標設定』『自分の夢や目標を周りに話す』『変化していく勇氣』の3つが必要です。夢は叶えるためにあるものであり、夢に向かっていく過程で人は成長していきます。無理だと思ったら変えても良いので、何か夢を見つけてがんばってください」と話しました。

話を聞いた3年の増井悠人さんは「努力することの大切さを学びました。水谷さんを超えられるようにがんばりたいです」と話してくれました。誰よりも大きな夢を叶えた水谷さんのコトバだからこそ、子どもたちの心に響いたことと思います。

この4月から、本市は「安心できるまち、人が集まる磐田市」に向けて組織体制を見直し、すべての子どもや若者、妊娠中の方や子育て世帯の方などへ包括的な支援を行う「こども若者家庭センター」を新設しました。

これまでも「こども・若者相談センター」において、子どもたちへの虐待の防止や不登校への支援に取り組むとともに、若者やそのご家族、女性の方などからの相談に対応してきました。

私は議員時代から、義務教育終了後の不登校支援の在り方を検討してきましたが、「小中学校における不登校は、学校や教育委員会とのつながりの中で先生や関係者たちの支援があるが、義務教育が終わると公的な支援の手が届きにくくなってしまっ

た」という声を聴きました。そのため、義務教育終了後も、進学や就労などの相談先をわかりやすくし相談体制を充実することで、公的な支援や社会とつながり、将来的なひきこもりの予防にもつながると信じて、さまざまな機能を拡張してきました。今年度から、さらに家庭との連携を深めながら、子どもや若者たちの環境をよりよくしていきたいと考えています。また、小中学生に配布しているタブレットなどを活用し、直接子どもたちの声を取りたいとも考えています。

引き続き、子どもが「ど真ん中」であることで、すべての人に優しい、安心できる磐田市を目指してまいります。

「こども若者家庭センターと不登校支援」

市長 草地博昭



大クスノの下から

第35回